

<中央銀行パネル>

経済・財政危機下での欧州中央銀行の金融政策
—近年の非標準的金融政策を中心に—

関西大学 高屋 定美

2008年以降、欧州中央銀行(ECB)は従来の標準的な金融政策と共に、非標準的金融政策と呼ばれる期間一年あるいは半年での無制限での金融機関向け貸出、カバードボンドの購入、そして国債の購入などに踏み切った。一部の政策は既に終了したが、財政危機が勃発しており、財政危機国向けの金融措置を行わざるをえなくなっている。

本報告では、まず標準的金融政策である金利調節の効果、および非標準的金融政策の効果をユーロ圏において実証的に評価することを試みる。従来、わが国の量的緩和政策に関する研究をふまえ、非標準的金融政策に関しては時間軸効果やポートフォリオ・リバランス効果などを通じて、金融市場にどのような影響を与えるのかを検証する。また金融機関の企業価値に影響をどの程度及ぼしたのかについてもイベント・スタディーを通じて、現時点での評価を行う予定である。

さらに、欧州中央銀行だけでなく、連邦準備や日本銀行による、異例ともいえる金融緩和が継続されたが、それらがグローバル経済に与える影響を考察し、グローバル化された金融市場のもとで、どのような金融政策運営が望ましいのか、特に大国の立場から検討を加える予定である。